

## 開 会 挨拶

今日、「都心のまちづくり “ひろしまワールドカフェ”」開催に当たりまして、こんなに多くの皆様にお寄りいただきましてありがとうございます。

本市では、「世界に誇れる『まち』広島」という実現を夢見まして、200万人の広島都市圏構想というものを作り、その下で「活力とにぎわいにより、中四国地方の発展をリードする都市広島」を目指してきております。そして、都市機能の充実・強化、中枢拠点性の強化に取り組んでいるところであります。

とりわけ本市におきましては、広島駅周辺の地区と紙屋町・八丁堀地区を、都心すなわち都市の活力とにぎわいを生み出す中心の場所となる、その都心を形成するための東西の核というふうに位置付けまして、相互にその特性を活かした都市機能の集積・強化を図って、刺激し合い高め合う、そういう関係の下で「楕円形の都心づくり」を推進したいというふうに考えています。

そして今申し上げました200万の広島都市圏構想というのは、人口減少あるいは少子高齢化が進む中で、社会経済情勢の激変、こういった変化に的確に対応するためには新しい発想の下で、かつ長期的な視点の下で政策展開が求められている、その希望に応えるという意気込みもありますし、実際には経済面・生活面で深く結び付いている近隣の市町との強固な信頼関係をまず作り上げると同時に、中枢都市において圏域全体の活力の維持向上を図っていくための様々な取組をしっかりとやっていく、この2つ、信頼関係の構築と全体を引っ張っていくための取組、これを同時並行でかつ確実にやっていく必要があるというふうに考えております。

こうした考えの下で、中長期的な視点で都心の目指すべき姿とか将来像、そしてその具体化に向けた施策等を示すために「都心活性化プラン（仮称）」そういったものを、県と一緒に策定することになっているところであります。

また今申し上げたような視点ともう一つ、すなわちマクロの視点というものに加えてミクロの視点も不可欠であるというふうに考えておきまして、まちの持続発展を現実のものとするためのいわば市民レベルの取組、そのときに大切なのは「自分たちのまちは自分たちで創る」という考え方でありまして、これが市民の間にしっかりと根付くということが必要になるかと思えます。そしてそれがしっかりしたものになれば、住民、企業、市民団体といった様々な主体が、都心の目指す姿であるとか、将来像を共有いたしまして、そして市民と行政というものが一丸となって具体的な取組に入っていけるというふうに考えております。マクロ、ミクロそれぞれの視点をしっかりと捉えて、対策あるいは様々な対応をしていくということになるかと思えます。

今日の催しのサブタイトルは、まさに「みんなで話そう～だえんの未来～」ということにしております。この「だえん」というのは、本市の都心の範囲を形に置き換えておりますが、角はありません、丸い、そして2つの目玉があります。人間の目玉です。そして、その2つの目玉、焦点というのはそれぞれ特色がありますので、そこを活かす、お互いに活かす関係であり、あるいは競合関係であるということがありますが、活かすということ

をやっいてこうと願っております。そしてみんなで一緒に取り組む、ということになるのかと思います。

今日、この場に御参加頂いた皆さんには、まちづくりの関心ということは当然あるという前提となっていると思います。「自分たちのまちは自分たちで創る」というこの思いを少し演習していただければというふうに思うわけでありませう。そしてみんなで我がまち、我が都市の未来像をまず描いていただき、その上でできる限り多くの人にその思いを広げていっていただきたいと思うわけでありませう。そうすればこの都心の未来は、本市だけではなく、近隣市町も含めた 200 万人の都市圏構想、あるいは県全体の発展の原動力にもなるというふうに信じております。

後ほどのトークセッションでは、湯崎広島県知事と共に私もパネリストとして参加させていただきます。是非、ご一緒にこういった議論をさせていただきます。

最後に、本日、お忙しい中、遠方より駆けつけていただきましたこぼやししげのり小林重敬先生を始め、のむら野村謙二郎さん、けんじろう松本裕見子さん、まつもと ゆみこそしてやまだともこ山田知子さん、ひらおじゅんぺい平尾順平さん、こういった方々にも深く感謝申し上げます、非常に簡単ではございますけれども開会の御挨拶とさせていただきます。本日はどうかよろしくお願ひいたします。

平成 27 年 (2015 年)11 月 29 日  
広島市長 松 井 一 實